習志野市合流式下水道緊急改善事業の 事後評価概要

習 志 野 市

次 第 No. 2

- 1 本市における合流改善計画の内容
- 2 合流改善対策の内容と実績
- 3 事後評価の方法
- 4 事後評価モニタリング結果
- 5 事後評価効果発現状況の確認
- 6 改善目標に対する達成度の確認(事後評価)
- 7 事後評価結果
- 8 今後の合流改善対策の見通し

1-1 習志野市の公共下水道の概要

- ●全体計画面積 2,035.5ha (津田沼, 高瀬, 印旛処理区)
- ●合流区域

津田沼処理区: 924.5ha

(習志野542.5ha十船橋382.0ha)

高瀬処理区:58.8ha

●雨水吐き室

津田沼処理区:8箇所

(うち1箇所未設置)

高瀬処理区:2箇所



1-2 汚濁負荷量の削減対策(削減目標の設定)

公共用水域への放流汚濁負荷量(BOD)を対策前に対し、平成21年度までに 分流式下水道並み以下とする。

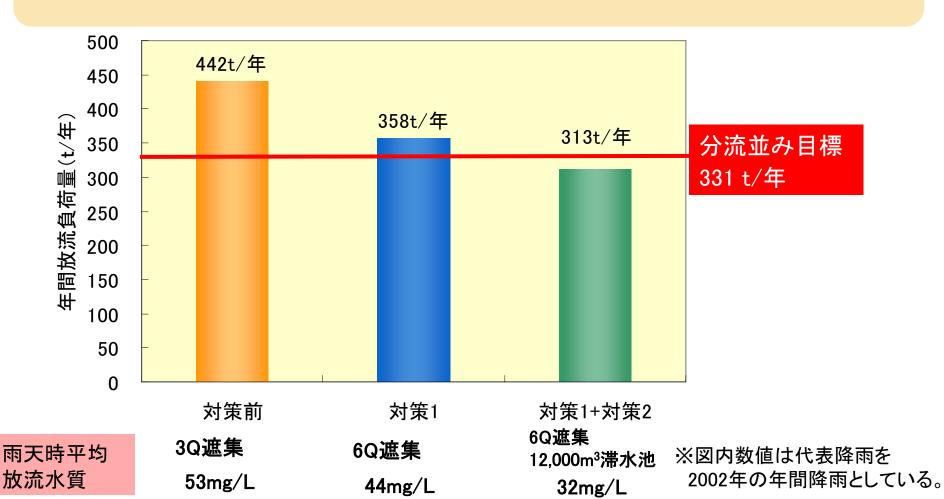


※図内数値は代表降雨を2002年の年間降雨としている。

1-2 汚濁負荷量の削減対策(改善効果)

対策1: 遮集量の増大(3Q⇒6Q)による未処理放流負荷量の削減

対策2:雨水滞水池(12,000m3)の活用による簡易処理水の一部の高級処理



1-3 公衆衛生上の安全確保対策(削減目標の設定・改善効果)

目標:すべての雨水吐きからの未処理放流回数を平成25年度までに半減する。

対策1: 遮集量の増大(3Q→6Q)による未処理放流回数の削減

対策2:雨水滞水池(12,000m3)の改造

目標=対策前÷2

		越流回数(回/年)			
船橋市より流入	吐き室名	対策前	対策1 (6Q遮集)	対策1+対策2 (60連集 + Ⅰ型•Ⅲ型滞水 池)	目標値
	No.D-1 菊田川3号幹線	57	10	10	28
D-1 E-2 F-1	No.E-1 菊田台1号幹線	60	13	13	30
E-4 G-4 G-3	No.E-2 菊田台2号幹線	65	19	19 半減	32
G-2	No.F-1 菊田川2号幹線	72	15	15	36
	No.G-2 枝線	45	15	15 💆	22
	No.G-3 堀田川幹線	69	17	17 荿	34
E STATE	No.G-4 菊田川1号幹線	54	7	7	27
	津田沼浄化センター	0	57	0	0
▲吐き口位置図	=	422	153	96	209

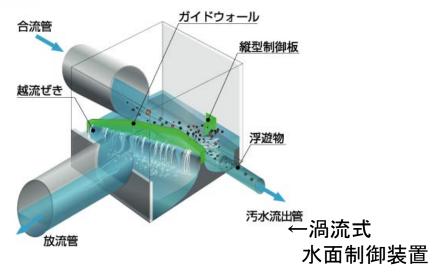
1-4 きょう雑物の削減対策(目標の設定)

全ての雨水吐きにスクリーン等を平成21年度までに設置する。



機械式 スクリーン→

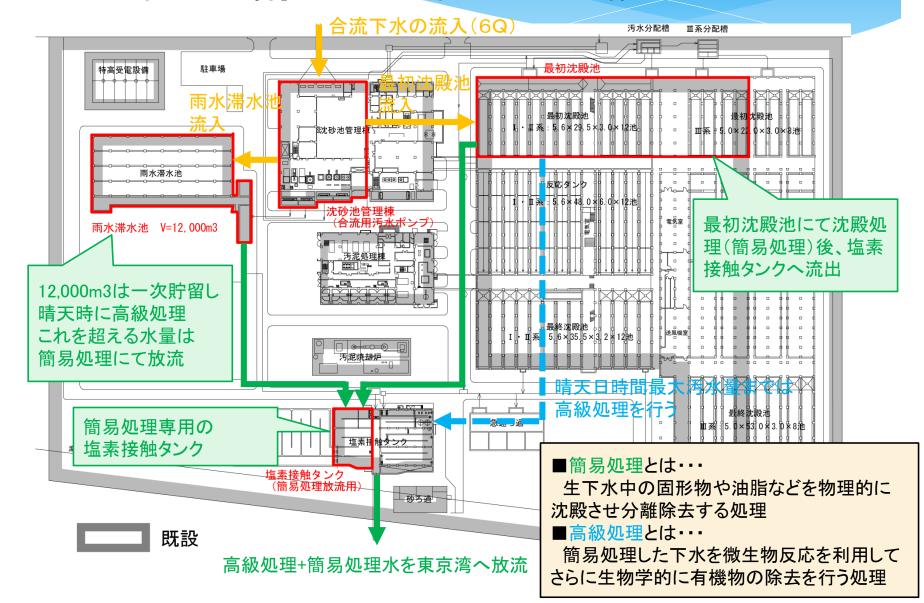
対策後





2 合流改善対策の内容と実績

2-1 遮集量の増強と雨水滞水池の整備



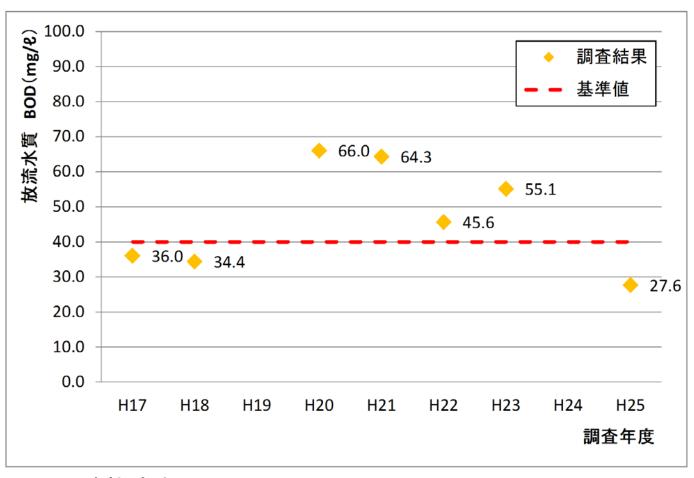
2 合流改善対策の内容と実績

2-2 雨水吐きへのスクリーン等の設置状況

処理区名	雨水吐名称	吐き口の位置	夾雑物除去装置		
处理区石	图小吐石柳	近ら口の近直	設置装置	設置年度	
	NO. D-1 菊田台3号幹線	谷津2丁目	水面制御装置	平成21年度	
	NO. E−1 菊田台1号幹線	谷津2丁目	水面制御装置	平成21年度	
	NO. E-2 菊田台2号幹線	谷津2丁目	水面制御装置	平成21年度	
津田沼処理区	NO. F−1 菊田川2号幹線	津田沼5丁目	水面制御装置	平成20年度	
	NO. G-2 枝線	鷺沼3丁目	水面制御装置	平成21年度	
	NO. G-3 堀田川幹線	鷺沼3丁目	水面制御装置 平成21年度 水面制御装置 平成21年度 水面制御装置 平成21年度 水面制御装置 平成20年度	平成21年度	
	NO. G-4 菊田川1号幹線	鷺沼1丁目	水面制御装置	平成21年度	
高瀬処理区	習志野2−1 (高瀬第2排水区)	谷津5丁目	水面制御装置	平成21年度	
同概处理区	習志野2−2 (高瀬第3排水区)	谷津4丁目	機械式スクリーン	平成17年度	

2 合流改善対策の内容と実績

2-3 放流水質の推移(雨天時の水質)



▲雨天時放流水質

①モニタリング調査 ②効果発現状況の確認 ③改善目標に対する達成度の確認 モニタリング降雨における 近年の降雨を対象とした改善目標 対策施設の効果発現状況 に対する達成度を年間総量に基づ の確認 き確認 ④合流改善対策効果の総括 5合流改善対策効果の公表

3 事後評価の方法 No. 12

①効果発現状況の確認

- ■モニタリング結果から放流汚濁負荷量を算定し評価
- ■汚濁負荷量の削減及びきょう雑物の削減対策を評価

②改善目標に対する達成度の確認

- ■近年の代表的な降雨(2008年)を対象に 年間シミュレーション結果から評価
- ■汚濁負荷量の削減及び未処理放流回数の年間総量に 対して評価

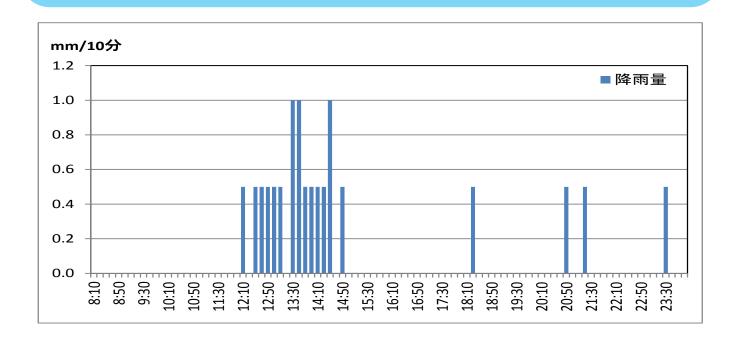
4-1 調査対象降雨

発生日時:平成26年11月1日:12:10~23:30

総降雨量:10.5mm

最大降雨 :10分最大 1.0mm/10分(6.0mm/hr)

時間最大降雨量: 4.0mm/hr 降雨時間: :11時間20分

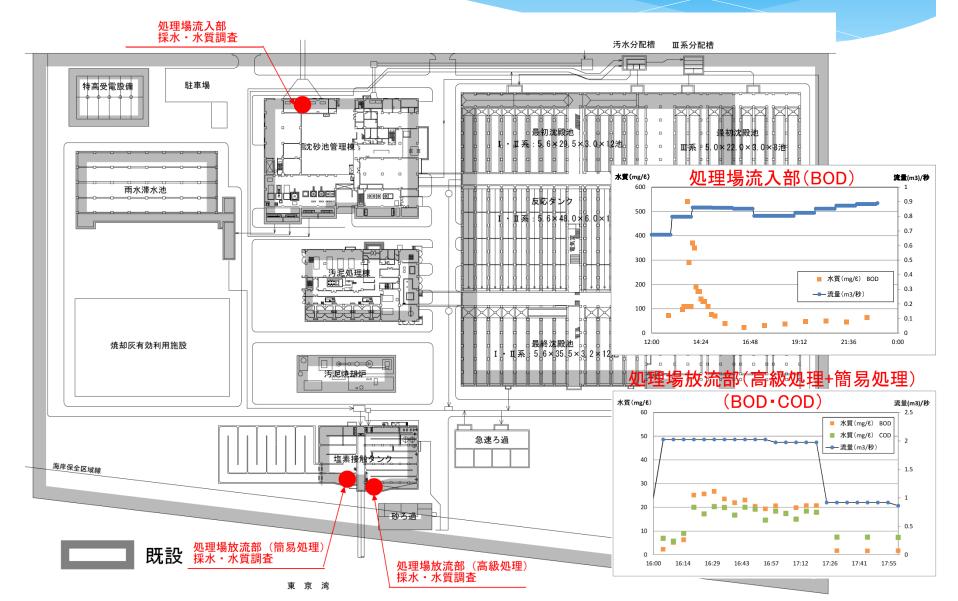


No. 14

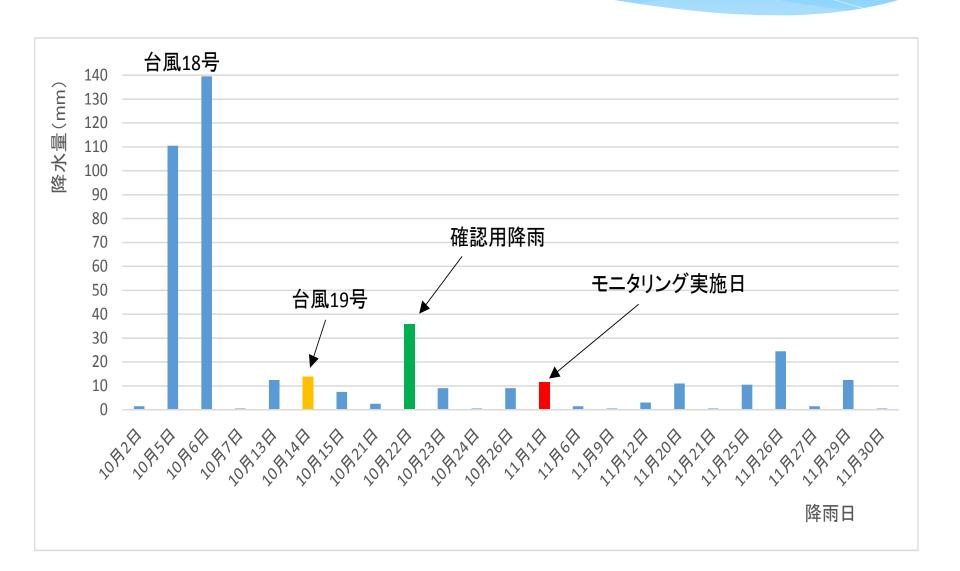
4-2 雨水吐きのモニタリング結果(水質)



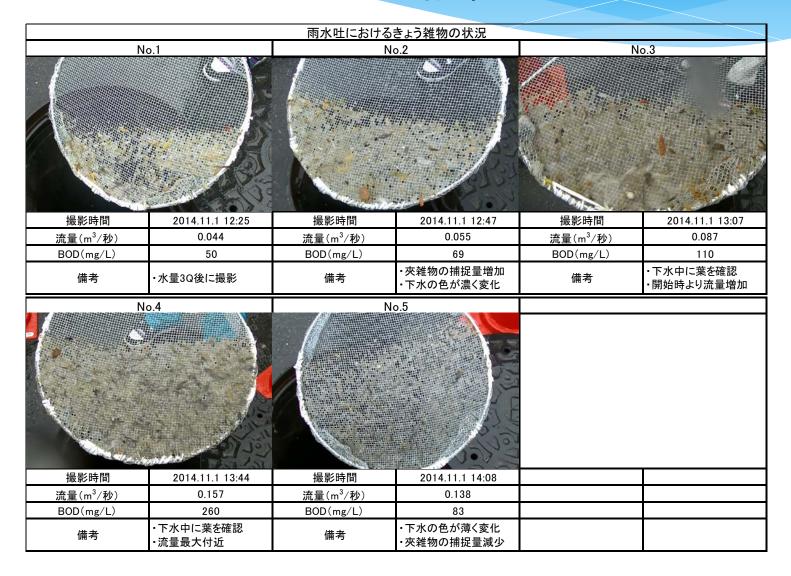
4-3 処理場のモニタリング結果(水質)



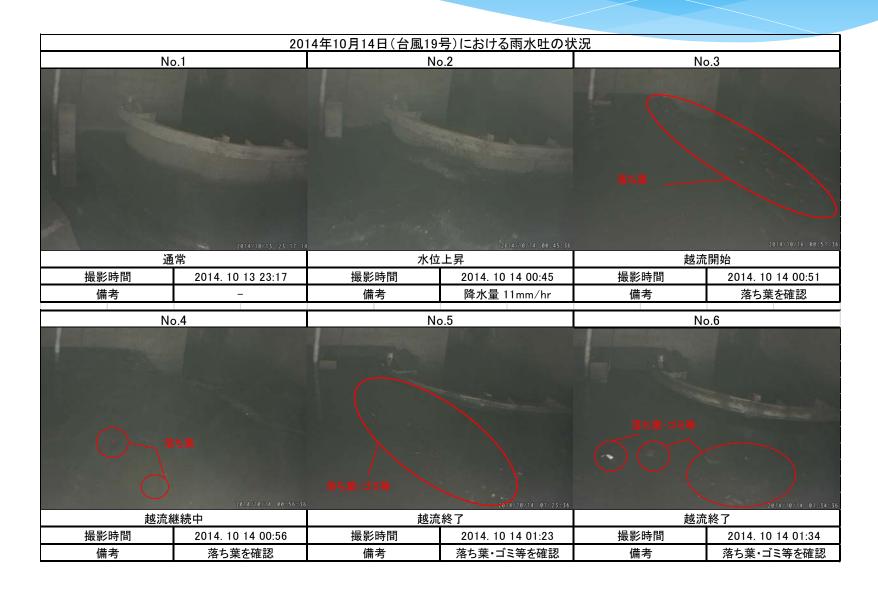
4-4 雨水吐きのモニタリング結果(きょう雑物カメラ撮影)



4-4 雨水吐きのモニタリング結果(きょう雑物カメラ撮影)



4-4 雨水吐きのモニタリング結果(カメラ撮影)

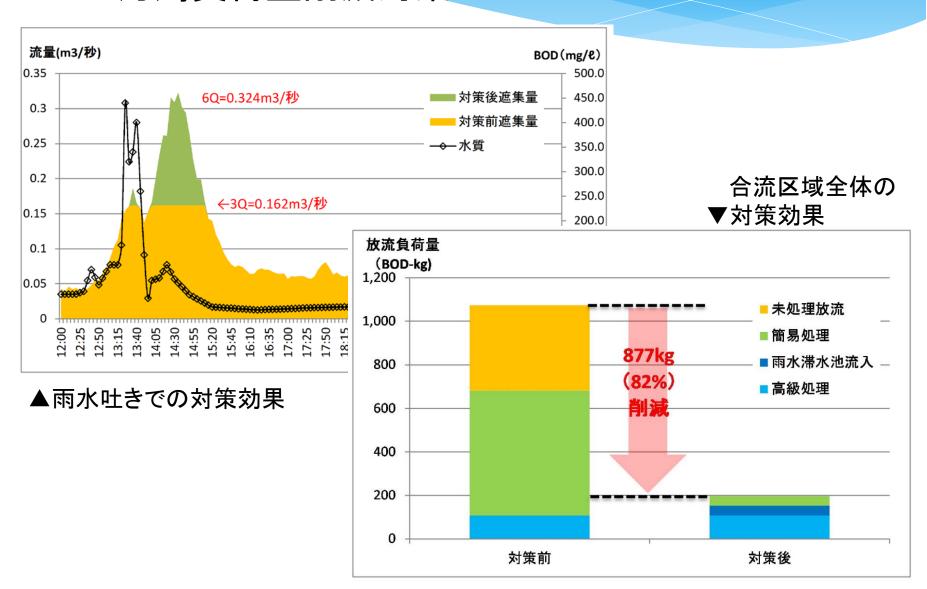


4-4 雨水吐きのモニタリング結果(きょう雑物カメラ撮影)



5 事後評価効果発現状況の確認

5-1 汚濁負荷量削減対策について

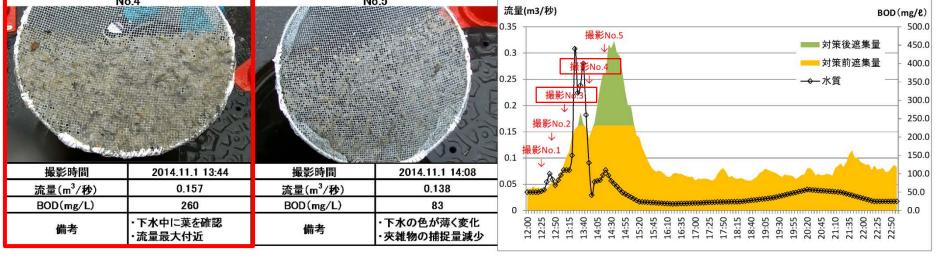


5 事後評価効果発現状況の確認

5-2 きょう雑物について



きょう雑物は浄化 センターへ確実に 流下している。 (公共用水域へ流 出していない)



6 改善目標に対する達成度の確認(事後評価)

No. 22

6-1 汚濁負荷量削減対策について

▼近年の代表的な降雨(2008年)での年間シミュレーション結果

項目		発生量 流量 発生量		=量	 ・ 除去率	放流量			
		// (千m3)	負荷 量 (t)	水質 (mg/l)	 	負荷量 (t)	水質 (mg/l)		
目標(分流並み)	汚水	高級処理	14,184	2525	178	96.3	93.4	6.6	
	雨水	未処理放流	5,919	99	17	0	98.9	16.7	
	合計		20,103	2,624	131	_	192.3	9.6	目材
対策前	浄化センター	高級処理	15,222	2381	156	96.3	88.1	5.8	
		簡易処理	1,876	144	77	55	64.9	34.6	
		小計	17,098	2,525	148	_	153.0	8.9	
	未処理放流		3,005	99	33	0	98.9	32.9	
	合計		20,103	2,624	131	_	251.9	12.5	対
	浄化 センター	高級処理	15,205	2376	156	96.3	87.9	5.8	
		簡易処理	2,083	106	51	55	47.7	22.9	
対策後		雨水滞水池	831	94	113	96.3	3.5	4.2	
		小計	18,119	2,577	142	_	139.1	7.7	
	未処理放流		1,984	47	24	0	47.2	23.8	
	合計		20,103	2,624	131	_	186.3	9.3	対

目標値

対策前

対策後

6-1 汚濁負荷量削減対策について



▲近年の代表的な降雨(2008年)での年間シミュレーション結果(削減効果)

6-2 未処理放流回数について

▼雨水吐きからの未処理放流回数の計算結果

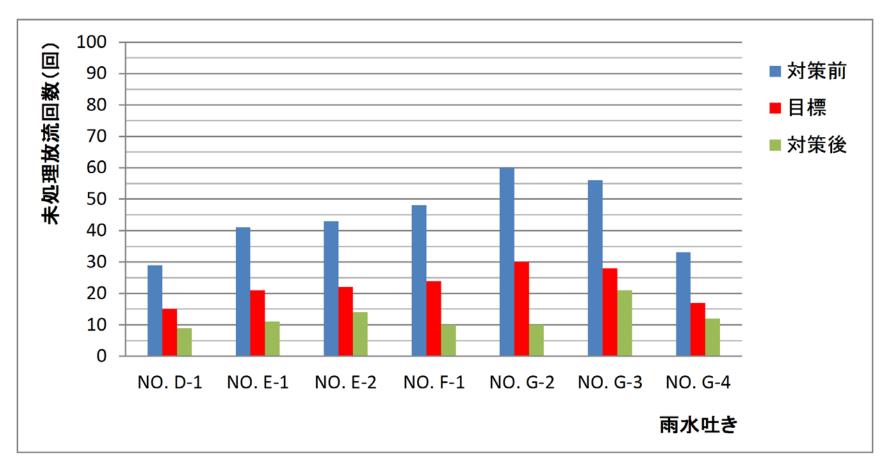
	改善目標に対する達成度 (近年の代表的な降雨2008年で評価)						
雨水吐き	年間未処理	里放流回数	削減				
	対策前	対策後	目標 (対策前÷2)	対策後 (対策前-対策後)	判定		
NO. D-1 菊田台3号幹線	29	9	15	20	ОК		
NO. E-1 菊田台1号幹線	41	11	21	30	ОК		
NO. E-2 菊田台2号幹線	43	14	22	29	ОК		
NO. F-1 菊田川2号幹線	48	10	24	38	ОК		
NO. G-2 枝線	60	10	30	50	ОК		
NO. G-3 堀田川幹線	56	21	28	35	ок		
NO. G-4 菊田川1号幹線	33	12	17	21	ОК		
合計	310	87	157	223	ОК		

全ての雨水吐きで対策前の未処理放流回数が対策後では半減できている

6 改善目標に対する達成度の確認(事後評価)

No. 25

6-2 未処理放流回数について



▲雨水吐きからの未処理放流回数の計算結果

【これまでに実施した合流改善対策】

- ①津田沼処理区内の雨水吐き7箇所の遮集量の増強(30→60)
- ②津田沼浄化センター雨水滞水池12,000m3の整備
- ③津田沼・高瀬処理区の雨水吐き9箇所にきょう雑物除去設備の整備

【対策効果の評価】

- ★公共用水域への放流汚濁負荷量は分流式並みまで削減されている。 (放流汚濁負荷量削減達成率⇒110%)
- ★公衆衛生上の安全確保について、各雨水吐きにおける雨天時の 未処理放流回数を半減できている。 (未処理放流回数削減達成率⇒142%)
- ★雨水吐きから公共用水域へのきょう雑物の流出を防止できている。 (雨水吐き対策率⇒100%)

- ●平成25年度までに達成すべき緊急改善目標は達成できた。
- ●今後は放流先である東京湾の水環境の向上を図るため 継続的な対策を進めていく必要がある。

【中長期的な対策案】

- ★ 公共用水域の水環境の維持
 - ⇒浸水対策として整備予定の鷺沼放流幹線により新規雨水吐きが 必要となるが、堰構造の工夫と水面制御装置の設置により 公共用水域の水質・景観の悪化を防止する。
- ★ 貯留・浸透施設の設置の推進
 - ⇒雨水流出抑制を図ることで下水道管への負荷量流出を 削減する。